

2023 12/9 sat —
2024 2/25 sun

開館時間：午前9時30分—午後5時
(入館は30分前まで)

休館日：月曜日(祝休日の場合は開館し翌平日休館)
及び年末年始(12月28日—1月4日)

観覧料：一般510(400)円／
高大生400(320)円／小中生200(160)円
()内は20名以上の団体料金
65歳以上の方(要公的証明書)および障害者手帳
ご提示の方(介護者1名を含む)は無料

主催：京都府、京都府立堂本印象美術館
(指定管理者：公益財団法人京都文化財団)、京都新聞
助成：一般財団法人地域創造

お問い合わせ：
〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3
Tel.075-463-0007 <https://insho-domoto.com>



若き日のロマン、 大正時代の 印象さん

Insho-san in his youth and the time of Taisho Roman

堂本印象《丘上の女達》部分 1912年
《いの字絵本》部分 1912年
すべて京都府立堂本印象美術館蔵

京都府立 堂本印象美術館

KYOTO PREFECTURAL INSHO-DOMOTO MUSEUM OF FINE ARTS



Exhibition 2023

Insho-san in his youth and the time of Taisho Roman

The exhibition focuses on Insho Domoto's youth and his vigorous day in Taisho era when he worked as a textile designer, keeping his enthusiasm to be a painter. Please take this opportunity to enjoy Taisho Romanticism (Taisho Roman) and Insho's artworks during Taisho era such as women in Osaka and Kyoto together with townscapes which inspired him greatly.

野外イベント
第5回野外いけばな展 私の印象2024
—京都新世代いけばな展関連事業—
2024年2月9日(金)〜2月12日(月)祝
場所：美術館庭園
9日午前は生け込みの様子をご覧いただけます。



交通のご案内
JR京都駅より市バス50、JRバス(立命館大学経由)
JR円町駅より市バス15、JRバス(立命館大学経由)
阪急電車烏丸駅より市バス12、52、55
京阪電車三条駅より市バス12、15、51、59
市営地下鉄四條駅より市バス12、52、55
※いずれも「立命館大学前」下車

展覧会、関連イベント
情報など随時更新 @DOMOTO_Insho @domoto_insho

予定を変更する場合がございます。
ご来館前に当館のホームページで最新情報をご確認ください。



京都府立 堂本印象美術館

〒603-8355 京都市北区平野上柳町 26-3
Tel.075-463-0007 https://insho-domoto.com

講演会 要申込
橋爪節也氏(大阪大学名誉教授)
“心中の都、美しい心中の都”
『いの字絵本 恋の都大阪の巻』と堂本印象の青春

2024年1月19日(金) 11時〜12時半
会場：京都新聞文化ホール
(京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都新聞ビル7階)
料金：1000円(展覧会入場券1枚付)
問い合わせ：京都新聞COM事業推進局開発
推進部(TEL:075-255-9757)
詳細は当館のホームページにてお知らせします。

スペシャルギャラリートーク

1月27日(土) 14時より
場所：2階展示室(参加費・申込不要、要入場券)
龍村 育氏(龍村美術織物 代表取締役社長)
と担当学芸員と一緒にいきます。

ギャラリートーク

1月20日(土)、2月10日(土) 14時より
場所：2階展示室(参加費・申込不要、要入場券)



給料は親弟妹に。
自分の生活は内職で。

夜は内職
人気を博した
一刀彫人形



ついに
日本画家
になる
花形作家として
注目を浴びる



昼は
图案家
飛ぶように売れた
印象图案の帯



初公開
多数

画家に憧れ
様々な
活動を展開
個展、自費出版……
仕事の傍ら
意欲的に挑戦



若き日のロマン、 大正時代の 印象さん

立志伝中の人………印象にもこんな時代があった

堂本印象(1891-1975)は苦学青年の画家でした。江戸時代より続く京都の造り酒屋の三男として生まれましたが、京都市立美術工芸学校在学中に家業が傾き、ほどなく父が病で倒れました。そのため、卒業後は、日本画家を養成する上級学校の京都市立絵画専門学校(絵専)への進学を断念し、親と6人の弟妹たちを養うため、龍村平蔵の龍村製織所の图案家となり懸命に働きました。画家への夢をあきらめきれない印象は、仕事の傍ら、欠かすことなく写生に出かけ、絵を描き続けました。大正7年(1918)、龍村平蔵より支援を受け、絵専に入学し、ようやく画家への道を歩み始めます。「立志伝中の人」とは、苦学を重ねて志を遂げ、成功した印象のことを画家仲間が評した言葉です。本展では、画家になる前の若き日の印象が描いた女性像を中心に、大正ロマン漂う世界を紹介します。多感な青年の印象に大きな刺激を与えた大阪、京都の女性や街並みをこの機会にお楽しみください。

- ①堂本印象图案《唐華文金唐草錦》1907年 龍村美術織物蔵
- ②堂本印象《道頓堀》1912年
- ③堂本印象《九軒の女》1912年
- ④22歳頃の堂本印象(写真部分)
- ⑤堂本印象《いの字絵本》1912年
- ⑥堂本印象《クラスメート》1913年【初公開】
- ⑦堂本印象《汐波》1915年
- ⑧堂本印象《おぼけ(花街の節分会)》大正初期 個人蔵
- ⑨堂本印象《島原太夫の絵巻》(部分)1920年
- ⑩堂本印象《色即是空》1922年 所蔵表記のないものは京都府立堂本印象美術館蔵

大阪の街、
女を描く
印象青年が描く
艶っぽい女たち